

FIN/SUM 2026
金子政務官 閉会挨拶
令和8年3月3日（火）18:40～18:45

皆さま、こんばんは。内閣府大臣政務官の金子容三です。本日は「FIN/SUM（フィンサム）2026」の初日にご参加いただき、誠にありがとうございます。共催者としてご尽力いただいた日本経済新聞社を始めとする関係者の方々、そしてご登壇いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。

<金融・フィンテックの役割>

高市総理・片山大臣からの開幕メッセージにもありまして、金融は、この国の成長に不可欠な分野です。中でも、フィンテックの役割は、AI やブロックチェーン技術といったテクノロジーを最大限に活かし、業務効率化や付加価値の創出につなげることで、金融業界はもとより、家計・企業・地域の生産性を底上げし、経済成長の土台を支える新たな手立てを提供することです。こうした新たな成長のエンジンとなるのは、本日お集まりいただいた皆さまをはじめとして、明日の社会をより良くしたいと強く想う皆さまの、イノベーションへの不断のご努力です。

<自身の経験>

私自身の経験を申し上げます。大学卒業後、証券会社で18年間働く中で、日本のイノベーションの遅れに対する危機感から、新しい金融サービスを創出する専門部署を立ち上げました。マーケットによって浮き沈みする収益モデルではなく、新しい金融サービスとビジネスモデルを模索しなければならないという

思いからの取組でしたが、取組を進める中で、日本には「挑戦して失敗して、また挑戦していく」ことを許容するような慣習が根付いていないことを実感したものです。

<FIN/SUM・金融庁の役割>

FIN/SUM に代表されるフィンテック・イベントでの議論やネットワーキングには、皆さまの挑戦を後押しし、イノベーションの強力な推進力となることを期待しています。

金融分野のイノベーションをリードされる皆さまが知見を持ち寄り、互いに刺激を受けながら、次なる挑戦へのモチベーションを高められる場を作り上げていただきたいと思います。

金融庁としても、新事業に取り組む事業者を法解釈等の面から支援する「FinTech サポートデスク」や「FinTech 実証実験ハブ」を設置しており、皆さまの前向きな取組をサポートしてまいります。

<今後の FIN/SUM>

今回で 10 回目を迎えた FIN/SUM は、本日始まったばかりです。明日以降も、幅広い観点からのパネルのほか、ピッチイベントなどを予定しています。また、Japan Fintech Week（ジャパン・フィンテック・ウィーク）の関連イベントも、多くの団体・事業者が企画されています。ぜひお楽しみいただければと思います。

<結び>

最後になりますが、皆様の今後の活動を通じて、フィンテックが社会をより良い方向へ導く原動力となることを心より願っております。ご清聴いただきありがとうございました。

（以上）